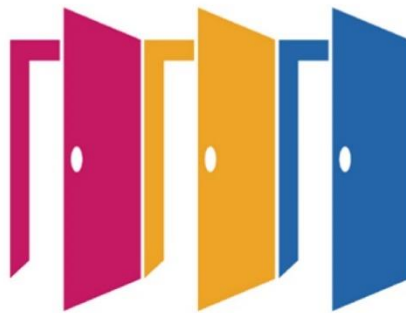


国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

ロータリーで良いことをしよう

高田ロータリー  
今年のスローガン

変化を楽しもう



ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度

国際ロータリー会長 **ホルガー・クナーク**  
2560地区ガバナー **佐藤 真**  
高田ロータリー会長 **大島 誠**  
幹事 **伴 長門**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025)526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員会：  
齋藤 尚明・飯塚 宏佳・佐藤 信・川崎 直哉・齋藤 俊幸

第 22 回例会 ◆1月8日(金)

No.22

会長挨拶 ●大島 誠



新年明けまして おめでとうございます。  
久々の豪雪の中 足元の悪い中 大勢の皆様にお集まりいただき感謝申し上げます。  
本日の卓話をお願いいたしております村山市長様におかれましては、交通の事情を鑑みて1時間も早く会場にお出でいただきました。重ねて御礼申し上げます。  
新型コロナウイルスの蔓延が収まらず、首都圏1都3県に緊急事態宣言が出されました。国民の健康を守る事が第一であることに異論はありませんが、経済が回らないことによる2次的な災害が懸念されます。特に飲食業への影響は甚大で、高田仲町も人出がほとんどありません。本来であれば本日の新年例会では祝賀会を行うところではありますが、残念ながら今年はお弁当の持ち帰りとさせて頂きました。今後の高田RCの例会の在り方については、現状では従来通りと考えていますが、理事会を早急に開催し2月26日に予定の高田・直江津・越後春日山3RCの合同例会については中止を検討することになると思います。また、2月19日に予定のオークションの開催についても検討いたします。また4月11日に開催予定のIMについては、各クラブ10名の限定的な参加になると案内が来ました。日本国内では2月後半からワクチン接種が始まるとの事ですが、一日も早く日常に戻る事を期待いたします。  
さて、今年初めての例会の卓話は恒例になりましたが、ご公務多忙の中、村山上越市長様にお出でいただき、「つながる未来へ」と題して年頭のお話を頂きます。ご清聴ください。

ビジター

上越市長 村山秀幸様  
高田ローターアクトクラブ  
会長 坂本広泰君、高峰康仁君



ディスカッションリーダー候補  
生委嘱状：中田 正君

セレモニー



入会式 山口 海君  
(平安セレモニー(株)  
デュオ・セレッソ 総支配人)



米山奨学カウンセラー委嘱状：  
齋藤尚明君

委員会報告

親睦委員会  
1月のお誕生日各お祝い

幹事報告

配布物：週報 20・21、ロータリーの友 1月号、ガバナーレター  
回覧物：ガバナー月信 1月号  
報告：次週 1/15 祝日振替休会



明けましておめでとうございます。皆様お一人お一人にとりまして、この一年が、明るく、希望に満ちた幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。高田ロータリークラブの皆様におかれましては、揺るぎないロータリー精神のもと、奉仕の心と旺盛な行動力によって友情の輪を広げられ、その多彩な取組を通じて地域社会に貢献いただいておりますことに、深く敬意を表します。

今朝、市の職員への挨拶をしてきました。そこで話したことをここでお話ししたいと思います。

今、職員たちは朝来ると先ず市議会議員の発信している SNS を見て回ります。そこにはいろいろ一方的に書かれていて、中には実名までも出ている事もあります。

反論や議論が出来る場ではなく、ただ見ている事でだんだんと相手の考えが心に重く積みあがってきます。そこには心無い中傷や非難が書かれたりもします。

小泉元首相が言っていました。「話さなくても解る人、話したら解る人、話しても解らない人がいる。我々政治家はその話しても解からない人に理解してもらう努力が必要だとおっしゃいました。職員にも必要な説明が出来ているのかと話をしてきました。私も市長になって10年、それを本当に出来ているかわかりません。しかし「あの時にやっていた事が、こんな風に実を結んだんだ」と何時か言われるように精一杯真摯に頑張っているつもりです。

かつて野球部に所属していました。そこではキャッチボールをするのですが、最初は40～50m離れて始めます。暴投を投げると相手は走って取りに行かなければなりません、そんな時こちらは「すまんすまん」と声を掛けますが、相手は「いいよいいよ」と必ず返します。そしてお互いに相手の胸のあたりをめがけてコントロール良く投げるように頑張ります。そして段々と近づいていき、10m位の距離になっても全力で投げるのです。1年生の頃は怖いのですが、次第に相手がどこが一番捕りやすいのか分かってきてそこに投げられるようになります。3年生になる頃には怖くなくなっています。そこに信頼と思いやりが生まれてくるのです。

上越市から学生が外へ出ていく、それは仕方ありません。特に女性が戻ってくる割合が低いのが上越市の特徴です。

遊ぶ場所が少ない、仕事が無い、そういった事も確かにあるでしょう。

ですが外で暮らした時に、「ああ上越市って良いところだった」「また上越に住みたいな」と思える街になり、その魅力をちゃんと伝えていくことで人口減少にブレーキをかけられればと思います。

このような時代にあって、私たちは、一つ一つの課題に真摯に向き合い、ピンチをチャンスに変えながら、深い思考と活発な議論により答えを導き、時には従来の常識にとらわれない発想や行動をもって困難を乗り越え、次の世代に安心して引き継ぐことのできる社会を創っていかねばならないものと思います。

ロータリークラブの設立理念である社会奉仕の精神は、言葉を変えれば、身近な人や地域のために何ができるのかを考え、共感と取組の輪を広げるということであると思います。そうした皆さんの思いと行動の積み重ねこそが、このまちを「確かな明日」へ導いてくれるものと思います。

他者のために取り組む皆様の姿を、社会を照らす一本のろうそくに例えれば、ろうそくの火は、他に分け与えても、元の炎が減ることはありません。二本三本と火を分け与えていけば、それらのろうそくの炎は、周りをより明るく照らします。

高田ロータリークラブの皆様におかれましては、引き続き、地域社会を未来に繋ぐ取組のリーダーとしてお力を発揮されるようご期待申し上げますとともに、本日お集りの皆様お一人お一人のご健勝、ご多幸、さらなる活躍をご祈念申し上げ、私からのお話を終わらせていただきます。